



第73号

発行日: 令和5年8月2日(水)

発行: 山口県立下関西高等学校

～普通科の総合的な探究の時間の活動や探究科の活動、SSH事業の取組など、下関西高の特色ある学びをお知らせします～

探究科2年次の地理歴史班が、蓋井島の要塞の跡を見学しました。

探究科

第二次世界大戦において蓋井島(ふたおいじま)が要塞として整備されていたことについて研究を進めている探究科2年次の地理歴史班の生徒5人が、7月23日(日)に、かつて建設されていた要塞の跡を見学しました。蓋井島は、下関市の吉見港から約10kmのところであり、下関市が運航する渡船でおよそ40分かかります。このたびは、下関歴史探求倶楽部の会長 大濱博之さんをはじめ3人の会員のみなさんに案内していただき、蓋井島の乞月山(こいづきやま)の山頂近くにある要塞の跡の一つを見学しました。生徒は蓋井島に到着した後、乞月山の要塞の跡に向かいましたが、道の一部は草に覆われており、下関歴史探求倶楽部のみなさんに草刈り機で草を刈っていただきながら道を開き、登りました。さらに、倒木などもあり、これらを乗り越えながら登山を続け、要塞の跡に到着するころには、港を出発して1時間が経過していました。山腹にある要塞の跡の入り口からコンクリートで建設された施設に入り、司令部や弾薬庫として使用されていた部屋を見学しました。また、砲台の跡地では、大濱さんから蓋井島に要塞が建設された理由や、どのような人々が建設に携わられたか説明していただきました。大濱さんによると、要塞が建設された当時、蓋井島の成人男性の多くが戦地に送られていたため、島の女性や子どもたちが建設に携わるとともに、私たちの先輩である下関中学校の生徒も参加したことが記録に残っているとのことでした。また、第2次世界大戦末期は、弾薬庫など限られたスペースで寝泊まりしながら、下関を防衛されていたとのことでした。

このたびは、下関歴史探求倶楽部のみなさんの御支援により要塞の跡を見学することができました。蓋井島を訪問して得られた成果を9月21日(木)に開催する発展探究中間報告会でしっかり発表してください。



御案内いただいた下関歴史探求倶楽部のみなさんと地理歴史班の生徒



山腹に突然現れた要塞の跡の入り口



コンクリートで建設された要塞の跡の内部(左:弾薬庫、右:司令部)を見学する公民班の生徒 砲台の跡地で大濱さんから説明を聞く

化学グランプリ2023に、1年次生が挑戦しました。

普通科

探究科

7月17日(月:海の日)に開催された化学グランプリ2023の一次選考に、探究科の1年次生1人が参加しました。コロナ禍においては、オンラインで実施されていた化学グランプリも、今年度は参加者が試験会場に集まって実施され、本校生徒は、福岡県宗像市にある福岡教育大学で一次選考に挑戦しました。化学グランプリは、20歳未満の高等学校や高等専門学校3年生までが参加できる大会で、中学生も参加できます。およそ80人が二次選考に進むことができ、二次選考では実験を行いながらレポートを作成します。本校から参加した生徒は、化学の授業を全く受けていない1年次生であるため、納得いく解答を導き出すことはできなかったと語っていましたが、このたびの経験をもとにして、これから学びを深めてくれることを期待しています。



化学グランプリに参加した1年次

普通科

は普通科を、

探究科

は探究科を対象としたプログラムです。

課題研究に取り組む探究科2年次の国語班や英語班が、大学の先生に相談しました。

探究科

発展探究の授業において課題研究に取り組んでいる探究科2年次の国語班と英語班が、研究を深めるため、大学の先生に相談しました。それぞれの研究班は、いただいたアドバイスを生かしながら、発展探究中間報告会に向けて準備を進めます。研究班がいただいたアドバイスを紹介しますので、探究科のみならず普通科のみなさんも課題研究に取り組む際の参考にしてください。

小説にえがかれている家族の人間関係に注目した国語班は、筑波大学大学院人文社会ビジネス科学術院人文科学研究群 教授 石塚 修 先生に相談しました。石塚先生からは、「様々な小説を読んで人間関係を分析していくと研究が心理学的なものとなってしまい、文学研究にならない。そこで、それぞれの小説にえがかれたストーリーが、どのような人々に受け入れられているのか、分析するとよりよい研究になるのではないかとお話しいただきました。

英語教育についての研究に取り組んでいる英語班は、専修大学文学部英語英米文学科 教授 田邊 祐司 先生と、本校のOBでもある京都大学国際高等教育院附属国際学術言語教育センター英語教室 教授 柳瀬 陽介 先生に相談しました。田邊先生からは、「1年間という短い期間で研究を進めるためには、スケジュールをしっかりと立てることが大切である」とことや、「研究テーマを設定する際には、身近な事柄から興味・関心をもったものを課題として選び、解決策を導き出してほしい」とお話しいただきました。さらに、柳瀬先生からは、「英語教育について研究するならば、先行研究をしっかりと調べ、これまで実践されてきたことのどこに課題があるのか一つひとつ書き出し、その中からストーリーに沿ったものを選んでつなげ、論理的に説明できるようにまとめるとよい」とお話しいただきました。また、柳瀬先生が高校生や大学1年生に向けて、研究のまとめ方の基本を述べられている動画を紹介していただきましたので、興味のある生徒は、右のQRコード (<https://www.youtube.com/watch?v=p0AD5PgjY44&t=915s>) を使って視聴してみてください。



研究に取り組む国語班の生徒



オンラインにより田邊先生に相談する英語班の生徒



研究のまとめ方の基本

立命館アジア太平洋大学訪問に向けたガイダンスを実施しました。

探究科

11月1日(水)に、探究科の2年次生が、訪問を予定している立命館アジア太平洋大学(以下、「APU」という。)から2人の方をお招きし、7月27日(木)にガイダンスを開催しました。来校された方は、APUでアドミッションズ・カウンセラーを務めていらっしゃる吉富 さおりさんと、今年の3月に本校を卒業し、現在APUのアジア太平洋学部で学ばれている末永 瑞希さんです。

大分県別府市にあるAPUには、約6,000人の学生が在籍しており、その半数が留学生(APUでは、「国際学生」と呼んでいます。)です。講義の多くが日本語と英語の両方でそれぞれ開講されており、学生の語学力に応じて受講する言語を選択できます。また、希望者は、キャンパス内にある学生寮で国際学生とともに生活することができ、末永さんからは国際学生と暮らす寮生活の様子を紹介していただきました。国際学生の中には3~7か国語を話すことができる方もいらっしゃるようで、国際色豊かな日常生活を送られているようです。また、入学式や普段の授業の様子、国ごとに国際学生が集まり週替わりで主催するイベントなども紹介していただき、キャンパスの雰囲気を知ることができました。探究科の2年次生は、このたびのお話を踏まえ、訪問に向けた準備をしっかりと進めてください。



APUで国際学生とともに受講する講義の様子を紹介



APUの特徴を紹介する吉富さん

普通科

は普通科を、

探究科

は探究科を対象としたプログラムです。